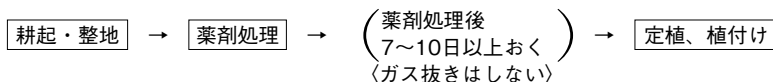


[上手な使い方]

A. 野菜類に対する使い方 (殺センチュウ剤として)

作付前 (定植、植付前) 処理の場合

1) 作業手順



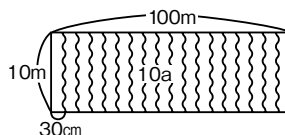
かたまり等があるとガスの拡散がうまくいかない場合があります、効果にムラが出ることもある。

2) 薬剤処理

① 全面土壌混和处理

畑全面あるいは植付予定地 (平うねなど) に散粒し直ちにロータリーで15cmの深さにスキ込みをする。

薬量 : 1㎡当り30g (10a当り30kg)



② 定植前全面土壌混和处理

畑全面あるいは植付予定地 (平うねなど) に30cm間隔に深さ15cmの溝を切り、その溝に1㎡当り9g均一に散粒し、直ちに覆土する。



薬量 : 1㎡当り9g (10a当り30kg)

☆マルチングする場合

ネマモールを処理した後早めにマルチングをし、7~10日以上おいてから定植する。

B. 茶に対する使い方

1) 薬剤処理方法

作物	10アール当り薬量	使用方法	
茶	30kg	畦間全面処理 畦間に散粒後直ちに ロータリースキ込み 	溝処理 裾下にそって深さ10~15cmの 溝に散粒後直ちに覆土 

☆生育中処理の注意事項

- 散粒後に適度な降雨があれば、なお効果的である。
- 3~8月の摘採期間中の断根 (根掘り) は生葉減収の原因にもなるので注意する。

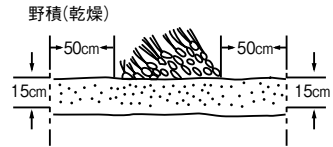
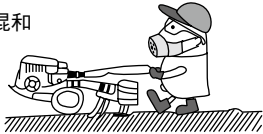
C. 「野ソ」食害忌避剤としての使い方 「野ソ」に対する有効期間は2ヶ月程度である。

イ 落花生での使い方

野積する当日、土壌混和する。

薬量 : 1㎡当り30g

混和



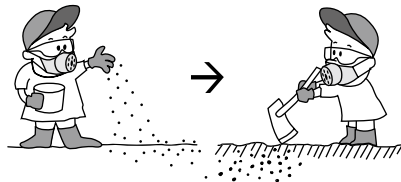
ネマモール粒剤1㎡当り30g散粒後すぐ深さ15cm位にロータリーなどですき込みをする。

野積に当たっては、下にむしろ、麻袋等を敷いて直接作物が処理土壤にふれないようにする

ロ りんご樹での使い方

薬量 : 1樹当り100g

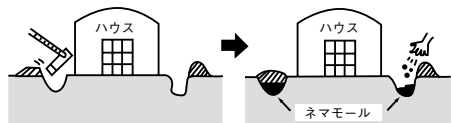
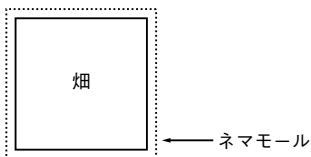
樹幹下半径約50cmの範囲に均一に散粒し、表土と混和した後、鎮圧する。



ハ 畑・ハウスでの使い方

薬量 : 1㎡当り50g

畑・ハウスの周囲に深さ10cm位の溝を掘り、ネマモール粒剤を1㎡当り50gを散粒し、直ちに覆土・鎮圧する。



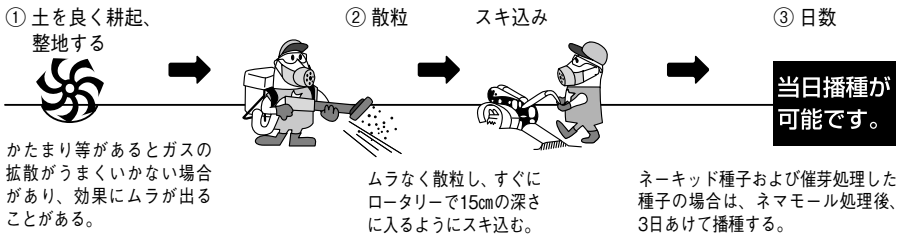
D. **モグラ忌避剤としての使い方**

薬量 : 1m当り100g

畑の周囲に深さ10cm位の溝を掘り、ネマモール粒剤を1m当り100g散粒し、直ちに覆土・鎮圧する。

E. **コナダニ類に対する使い方**

イ ほうれんそう (全面土壌混和)



ロ きゅうり (育苗床モミガラ処理)



育苗床のモミガラにネマモール粒剤30g/m²を散布する。